

DEVOTION TO THE ARTS OF LIVING
Daily Life Among the Aynu of the Kurile, Sakhalin and Hokkaido Islands



特別展 | 千島・樺太・北海道
アイヌのくらし

—— ドイツコレクションを中心に ——

2011年10月6日(木) — 12月6日(火)

特別展示館 開館時間=午前10時~午後5時 [入館は午後4時30分まで]
休館日=水曜日 [期間中11月23日(水・祝)は開館、翌24日(木)は休館]

主催=国立民族学博物館 共催(共同主催)=財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 後援=国土交通省、文化庁、外務省、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、北海道、北海道教育委員会、大阪府教育委員会、吹田市、吹田市教育委員会、社団法人北海道アイヌ協会 協力=ドレスデン国立アートコレクション、ザクセン国立民族誌コレクション群、ライブツィヒ民族学博物館、ドレスデン民族学博物館、北海道開拓記念館、東京大学総合研究博物館、東京大学大学院医学系研究科・医学部細胞生物学・解剖学講座、板橋区立郷土資料館、両館市中央図書館、財団法人アイヌ民族博物館、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、北海道大学スラブ研究センター、財団法人千里文化財団、日本万国博覧会記念機構



国立民族学博物館

特別展 | 千島・樺太・北海道

アイヌのくらし

ドイツコレクションを中心に

ヨーロッパではアイヌ民族に対する関心が高く、19世紀末から20世紀初めにかけてアイヌに関する資料が盛んに収集されました。特にドイツでは、北海道、樺太(サハリン)、千島列島のアイヌの民具が多数収集されました。今回はその中でも、ライプツヒヒとドレスデンの民族学博物館から152点の資料と30点あまりの写真を借用して展示します。また、これらとほぼ同時期に収集された本館の所蔵資料(東京大学旧蔵資料)も展示します。アイヌ文化が急激な変化を被りつつも、その独自性を残していた100年前の人びとのくらしを紹介するとともに、生活用具製作の技術の高さと、工芸としての完成度の高さを示していきたいと思ひます。また当時、黎明期にあった日本の人類学の活動の一端も紹介します。なお、今年は日独交流150周年で、本特別展はその関連事業の一つです。

◎ 関連イベント

※詳しくはみんぱくホームページをご覧ください。

■ みんぱくゼミナール

『物にみるアイヌ文化の地域性』
講師: 齋藤玲子 10月15日(土)
13:30~15:00 定員450名

『絵画にあらわれたアイヌの風俗』
講師: 佐々木利和 11月19日(土)
13:30~15:00 定員450名

■ みんぱく映画会

『TOKYOアイヌ』
解説: 宇梶静江 10月9日(日)
13:30~16:00 定員450名

『ビューティフルジャパン(美しき日本)』
解説: 岡田正子 10月30日(日)
13:30~16:30 定員450名

『Ainu Past and Present
—マンローのフィルムから見えてくるもの』
解説: 内田順子 12月4日(日)
13:30~15:45 定員450名

■ 研究公演

『アイヌ音楽ライブ トンコリ×ウポボ』
出演者: OKI(オキ)+マレウレウ
10月16日(日) 要事前申込
14:00~15:30 定員450名

■ ワークショップ

『ムックリ体験』
講師: アイヌ民族博物館職員 10月22日(土)
①10:15~12:15 ②14:00~16:00
定員各回30名

『アイヌ女性の手仕事を現代に』
講師: 遠山サキ・堀悦子 11月6日(日)
①樹皮糸でストラップを編もう
10:30~12:30 定員20名
②ガマの葉でミニごごをつくろう
14:00~16:30 定員20名

■ 国際シンポジウム

『温故知新—アイヌ文化研究の可能性を求めて—』
11月12日(土) 10:30~17:30
11月13日(日) 10:00~16:00
定員80名

■ みんぱくウィークエンド・サロン

10月9日(日)、10月23日(日)、10月30日(日)、
11月27日(日)、12月4日(日)

■ ギャラリートーク

10月8日(土)、10月10日(月・祝)、
10月15日(土)、10月29日(土)、
11月5日(土)、11月23日(水・祝)、
11月26日(土)、12月3日(土)

【掲載資料】表上から 1. 帽子(樺太) 2. 盆(千島) 3. 板綴り船(北海道)
4. 籠(北海道) 5. 袋(北海道) 6. 魚皮製衣服(樺太) 7. かばん(樺太)
裏上から 8. 小刀(北海道) 9. 籠(千島) 10. 杓子(千島)
11. 首飾り(樺太) 12. イクパスイ: 捧酒筥(北海道)
7, 9, 11 はライプツヒヒ民族学博物館所蔵、他は国立民族学博物館所蔵

【観覧料】一般420円(350円) 高校・大学生250円(200円) 小・中学生110円(90円)

()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)*大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程 [無料観覧日] 11月3日(木・祝)、11月19日(土)、11月20日(日)
※自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園を無料で通行できます。※障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに無料で観覧できます。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が必要です。

【お問い合わせ先】国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL:06-6876-2151(代) <http://www.minpaku.ac.jp/>



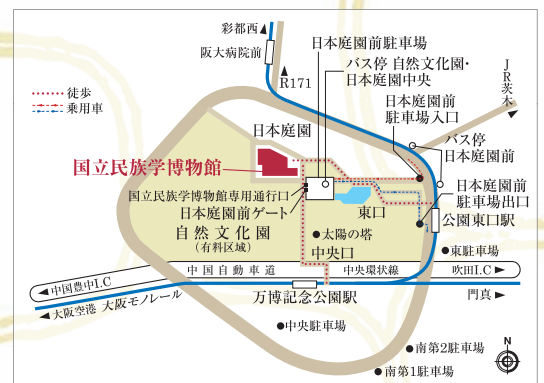
エキムネ
ekimne

ウパロイキ
uparoyki

イペ
ipe

イミ
imi

イノミ
inomi



【交通案内】国立民族学博物館(みんぱく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

■ 大阪モノレール 「万博記念公園駅」下車徒歩約15分(展示場をご覧になる方は、みんぱくの観覧券をゲートにてお買い求めになれば無料で通行できます。)[「公園東口駅」下車徒歩約15分(「公園東口駅」からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。)]

■ バス [近鉄バス] (阪大本部行き) 阪急茨木市駅から約20分・JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分[阪急バス] (万博記念公園駅経由千里中央行き)・阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分

■ タクシー 万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分

■ 自動車 駐車施設が無い「みんぱく」への車の乗り入れはできません。万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願ひます。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分 *「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口を通りください。